

NARO RESEARCH PRIZE SPECIAL II

高接ぎ木法を核としたトマト青枯病総合防除技術

トマト青枯病防除技術研究推進グループ

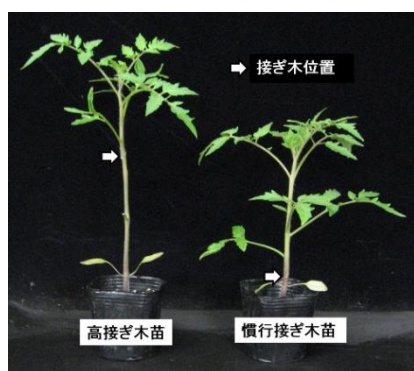
中保 一浩、井上 康宏（中央農業研究センター）

研究の目的・背景等

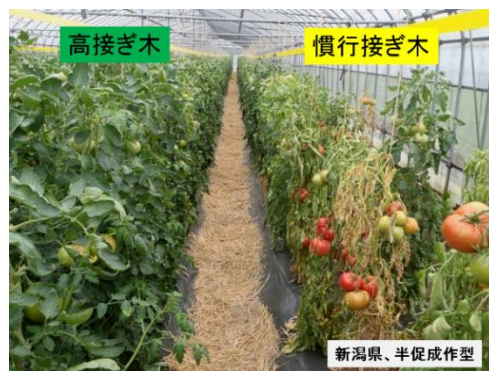
トマトの重要病害の青枯病の防除法としては、抵抗性台木品種を用いた接ぎ木栽培が普及している。しかし、従来の接ぎ木法では本病の被害を回避できない。そこで、台木の抵抗性を最大限に活用した持続的な青枯病総合防除技術を開発した。

研究の概要

高接ぎ木法は、慣行より高い位置（地際から10 cm以上）に接いだ苗を利用したトマト青枯病防除技術である。本法は、台木品種の持つ“植物体内で青枯病菌の移行と増殖を抑制する能力”を最大限に活用することで慣行接ぎ木よりも高い発病抑制効果が得られる。また、ほ場の下層部まで消毒できる糖蜜を利用した土壌還元消毒等と組み合わせることでさらに持続的な防除効果が期待できる。高接ぎ木苗は民間企業により商品化され、現在、41都道府県の生産者ほ場に導入済みである。



高接ぎ木苗の苗姿



高接ぎ木のトマト青枯病防除効果